

## II.4. 大阪大学言語文化学会

### ○言語文化学会活動

2023（令和5）年6月29日（木）大阪大学言語文化学会第62回大会

#### <研究発表>

稲葉 皐「留学経験者に関するからかいのディスコース分析」－メディアで表象されるイデオロギーに注目して

杜天昊「中国語の「我」と「你」－話し手・聞き手以外の対象を指す用法－」

張翊「日本語複合動詞におけるV2の補助動詞化と結合制約－「V+きる」を中心に－」

石倉 綾乃「アーヴィン・ウェルシュの『フィルス』における絶食と過食」

張応謙「ナラティブにおけるアイデンティティの揺れ－COVID-19下での地域的差別のケーススタディ」

劉婉儀「認知言語学の視点からみる日本語と中国語の「心」の概念化－「心」を「もの」に喩える慣用表現の意味拡張の比較を通じて－」

邱曉石「DE(的) as an Atelic Marker of Mandarin Chinese」

#### <特別公開講演>

松本 曜先生（国立国語研究所）

「フレーム意味論とその展開」

2023（令和5）年10月26日（木）大阪大学言語文化学会第63回大会

#### <研究発表>

DOAN NGOC MINH TRAN「フレーム意味論から見たアメリカ英語の anger とベトナム語の giận－コーパスに基づくアメリカ英語の angry とベトナム語の giận の比較を通じて－」

蔡苗苗「オンラインによるピア・レスポンスにおける大学院進学希望者の相互行為とその学び－学習者間のスキヤフォールディングに注目して－」

岸田 月穂「Twitter上で築かれるファンコミュニティに見られる相互行為と規範意識」

竹森 ありさ「英語色彩語を含む強意直喩表現における含意とレトリック」

劉 東「日本語アカデミック・ライティングにおける引用使用の実態調査－中国人上級日本語学習者によるレポートを対象に－」

川端 映美「フランスにおける早期離学者への教育支援 パリ市立「成人のための市立高校  
(Lycée Municipal d'Adultes)」に着目して」

梶原 久梨子「フランス語の動詞に続く前置詞句 à NP と de NP に関する一考察」

< 招聘研究発表 >

山岡 華菜子先生 (龍谷大学)

「非線形モデルを用いた英語リメディアル教育学習者の動機づけ分析」

柿原 武史先生 (関西学院大学)

「言語回復政策とは何か？—スペインのガリシア語をめぐる社会言語学環境の変遷から考  
える」

< 総会 >

1. 2023 年度役員・委員

【役員】会長：山本佳樹、副会長：里内克巳

監事：田村幸誠、ホドシチェクボル

【教員委員】委員長：中畠浩貴、副委員長：秦かおり

会計委員：菅谷友亮 (前期)

教員委員 (企画・編集委員を兼務)：佐高春音、鈴木啓峻、金澤佑、

ホドシチェクボル、菅谷友亮 (事務局担当、前期)

【院生委員】院生委員：岸田月穂、木村行人、宮崎真奈、張抒蔚、陳 凱歆

2. 2022 年度活動報告

3. 2022 年度会計報告

4. 2023 年度予算案

5. 2023 年度活動

6. 会員数

7. その他

2024 (令和 6) 年 3 月 31 日『言語文化学』第 33 巻発行

< 査読者 >

今尾康裕、大森文子、岡田悠佑、越智正男、木原善彦、小葉哲哉、小口一郎、小杉  
世、坂内千里、霜鳥慶邦、高橋克欣、田畑智司、田村幸誠、津田保夫、西田理恵子、  
早瀬尚子、福田覚、三藤博、村上スミス・アンドリュウ、山口征孝 (外部委員)、ヨ  
コタ村上孝之、渡辺貴規子

○『言語文化学』第33巻(2024)目次

論 文

- ・中村明日美子作品における「結婚」表象の分析  
.....東浦 可奈
- ・勅使河原宏『燃えつきた地図』(1968)における都市表象  
.....胡 響楽
- ・フランス語前置詞 à の用法と機能  
—V à N と N1 à N2 の場合—  
.....梶原 久梨子
- ・「心」の概念化の日中対照研究:「心」を含む慣用表現を通じて  
.....劉 婉儀
- ・中国のヤオイ愛好者における物語消費の仕方  
—関係性消費を中心に—  
.....錢 蕾
- ・異化されたアニメーション  
—高畑勲の作品における異化の手法を中心に—  
.....劉 雅欣
- ・中国語の「我」と「你」  
—話し手・聞き手以外の対象を指す用法—  
.....杜 天昊
- ・力動性モデルに基づく分断・破壊事象を表す動詞「切る」の多義構造研究  
.....王 鈺
- ・A Discourse Analysis of Code-Switching: a case study of interactions between Japanese students who studied abroad during the COVID-19 pandemic  
.....Satsuki INABA